

<p><b>タイトル</b></p>	<p>国産旅客機 MRJ を世界の空へ！</p>
<p><b>講演者</b></p>	<p>岩佐 一志 (いわさ ひとし)氏</p>
<p><b>講師紹介</b></p> 	<p>三菱航空機株式会社 経営企画部長</p> <p>1959 年生まれ、徳島県出身 1983 年 3 月 東京大学経済学部卒業、同年 4 月、三菱重工業株式会社入社 工作機械事業部(京都)に配属後、約 13 年間、工作機械事業の経理、企画等を担当 1996 年 1 月 社長室企画部に異動し、全社経営計画の取りまとめ、事業ポートフォリオの見直しなどを担当 2008 年 4 月 三菱航空機株式会社設立に伴い、同社に異動 2010 年 4 月 営業部長に就任 2013 年 2 月より現職</p> <p>家族は妻と三女、好きなスポーツ:ラグビー</p>
<p><b>概要</b></p>	<p>1945 年の敗戦まで、世界屈指の水準であった我が国航空機産業は、戦後の占領政策などにより世界の技術革新に立ち遅れた。起死回生を狙ったYS-11 は 1962 年に初飛行を果たしたが、累計販売機数は 180 機に留まり 1973 年に製造を終了。その後、日本はボーイング等の海外プログラムへの参画によりティア1(下請け)として民間航空機産業を発展させてきた。</p> <p>しかし、中国や東南アジア各国、メキシコなどが航空機産業を重点産業と位置付け、賃金競争力も武器に事業の伸長を図っている中で、中長期的な視点に立った場合、日本が労働集約型である構造組立を中心とする下請事業のみで航空機産業を伸長させていくことはよいよ困難になると予想される。</p> <p>このような状況を打破し、航空機産業を将来に亘る成長産業とするには国産旅客機の開発が不可欠であるとの認識のもと、日本が再び民間航空機インテグレータとなるべく開始されたのが MRJ(Mitsubishi Regional Jet)プロジェクトである。</p> <p>MRJ は 2008 年に正式に開発が開始され、来年には初飛行を予定し、受注機数も 350 機に届くところまで来ている。本公演では、MRJ 開発の背景、今後の市場見通し、競合機の状況と MRJ の競争力並びに開発・事業化の現状をお話する。</p>